

2025年10月期末 決算補足説明資料

株式会社CAICA DIGITAL(2315)

2026年1月14日

従来、決算補足説明資料は決算発表日と同日に開示しておりましたが、当2025年10月期通期決算補足説明資料につきましては、十分な内容の精査および正確性を高めた上で、情報提供を行うことが、投資家の皆様に対する説明責任の観点から重要であると判断した結果、開示を2026年1月14日に延期いたしました。

本資料は株式会社善光総合研究所(以下、善光総研)の子会社化に係る内容を一部、追加するとともに、関連情報の整理および補足を行った上で、作成・公表しております。

なお、本資料に記載の業績予想には、善光総研の子会社化に伴う影響は織り込んでおりません。今後、善光総研の子会社化に伴う業績への影響等を精査し、速やかに開示いたします。

01

当社概要

04

02

当期の要点

15

03

2025年10月期 通期決算

20

04

2026年10月期 通期業績見通し

29

05

中期経営計画

35

06

トピックス

42

01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

中期経営計画

06

トピックス

会社概要※1

会社名	株式会社CAICA DIGITAL
事業内容	グループ会社の管理運営
設立	1989年7月14日
所在地	東京都港区南青山五丁目11番9号
代表	代表取締役社長 鈴木 伸 代表取締役副社長 山口 健治
資本金	50百万円
連結売上高	5,195百万円 (2025年10月期)
決算期	10月
上場市場	東京証券取引所スタンダード

主要子会社	
会社名	株式会社CAICAテクノロジーズ
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> - ITサービス事業 - システムインテグレーション事業 - DXソリューションサービス事業
会社名	株式会社カイカファイナンシャルホールディングス
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> - Zaif INO運営事業 - カスタマーディベロップメント事業
会社名	株式会社ネクス※2
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> - 各種無線方式を適用した通信機器の開発、販売 - 上記にかかるシステムソリューション提供及び保守サービス

1. 本資料は2025年10期末時点の状況を掲載しております。
2. 2025年10月末よりBSを連結に反映し、2026年10月期よりPLを連結に反映します。



主力事業の拡大に注力

CAICA DIGITALは「デジタル金融の世界を切り拓く」というコーポレートミッションのもと、暗号資産交換業のZaifや第一種金融商品取引業のEWJをはじめ、様々な形態の金融サービス業を行ってまいりました。

しかし、採算性の観点などから2023年10月期末に金融サービス事業の一部から撤退し、新たな体制で事業運営を行った結果、業績は大幅に改善しました。

本2025年10月期は、新事業「DXソリューションサービス」の飛躍を成長エンジンとして、基幹事業であるITサービス事業を拡大致しました。

代表メッセージ

サイバーセキュリティや生成AIなど、先端技術へのニーズが急速に高まり、企業のIT投資は新たな局面を迎えております。当社グループを取り巻く事業環境も想定以上に大きく変化しており、ITサービス事業および金融サービス事業において計画未達の部分が生じる結果となりました。現状を厳粛に受け止め、収益性の改善と事業基盤の強化が喫緊の課題であると認識しております。

一方でITサービス事業におきましては、今後の注力分野として本格的にスタートした「DXソリューションサービス」が堅調に拡大しました。これは、海外大手ベンダーであるHCL SoftwareやPegasystemsのソリューションを当社がパートナーとしてクライアントへ提供することで、クライアントのDX推進を成功に導くサービスとなります。引き続き、拡大に努めてまいります。

金融サービス事業におきましては、「Zaif INO」ならびに「カイカコイン」を活用したサービスの高度化を推進しつつ、市場環境に左右されにくい事業モデルへの転換に取り組んでおります。短期的成果のみにとらわれず、中長期的な収益基盤の構築を重視してまいります。

なお、2025年10月には、**株式会社ネクスが新たに当社グループへ参画しました**。通信・車載領域に強みを有しているネクスは、当社グループのIoT関連事業を担い、ITサービス・金融サービス双方の事業領域において、提供価値の拡大およびシナジー創出が期待されます。

当社は、今期に顕在化した課題を真摯に受け止め、必要な改革を着実に推進してまいります。同時に、新たなグループ体制のもと、再成長への確かな道筋を築くべく全社一丸となって取り組んでまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

CEO代表取締役社長 鈴木 伸



当社のセグメント※1

当社は、安定的な収益を生む「ITサービス事業」、拡大するマーケットの中で収益獲得を見込む「金融サービス事業」から構成されます。ITサービス事業においては上流工程の獲得や、価格改定により、より強固な収益体制を目指します。金融サービス事業においては2023年10月期末の再編に伴い慢性的な赤字体质を改善し、グループへの貢献を図ってまいります。

ITサービス事業

ITサービス事業

ブロックチェーン等の最先端技術や豊富な開発実績を活かした自社開発のITサービスを販売しております。企業のデジタル・トランスフォーメーション（DX）化を実現します。

システムインテグレーション事業

金融、ポイント・決済、公共・官公庁、EC・通販をはじめとした業界領域で培ったノウハウを基に、システムの企画検討から、設計・構築、運用・保守に至るまで、フロント、バックオフィスから基幹系システムを問わず最適なシステム提供をいたします。

DXソリューションサービス事業

AIを活用したDXソリューションの開発を手掛けるベンダーと提携し、DXソリューションプロダクトを提供します。

金融サービス事業

Zaif INO運営事業

審査制NFT販売所(一次販売)の運営を行います。Zaif INOが審査することで厳選されたNFTを安心してご購入いただけます。さらに、クレジットカード決済対応可能で、暗号資産をお持ちでない方でも簡単にNFTを購入頂けます。暗号資産やウォレットが不要でNFTが所有できる「NFTカード」も販売中。

カスタマーディベロップメント事業

暗号資産や金融業界をはじめとした様々な業界に適応可能な顧客対応事業です。ご相談いただいた業務内容に合わせて、高水準のカスタマーサポートチームを提供するほか、カスタマーとの友好な関係構築を支援いたします。

暗号資産発行・運用事業

自社発行暗号資産カイカコインを活用したサービス展開を行います。カイカコインのユーティリティ向上に伴う需要の増加により収益の最大化を図ります。

1. M&Aにより取得した株式会社ネクスについて、2026年10月期は期初から12ヶ月寄与します。

・ 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10月期末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
・ 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

金融サービス事業について

当社の金融サービス事業は一貫してWeb3領域における新規事業の開拓を行ってまいりました。審査制NFTローンチパッド「Zaif INO」の運営および、自社発行暗号資産「カイカコイン」を活用したサービスの展開などを行っております。今後、Zaif INOを中心に事業を拡大するとともに、カイカコインのユーティリティを向上させることで、Web3事業の成長を図ってまいります。



Zaif INO会員特典

Now Available



電子書籍読み放題

Now Preparing



協賛店で特典獲得



特別なイベントに招待



特別なNFTを配布



金融サービス事業 カイカコインについて※1

カイカコインは、当社が発行するイーサリアムネットワーク上のERC20規格に準拠した暗号資産で、2023年にはPolygon対応を完了し、マルチチェーン化を実現しました。現在は国内暗号資産交換所Zaifに上場しており、9年に及ぶ運用実績を有します。当社は上場企業としての責任のもと、活用シーンの拡大を通じてカイカコインの価値向上に取り組んでまいります。

カイカコイン発行状況

発行可能枚数

300百万CICC

上場取引市場

Zaif(国内)

時価総額※2

540百万円

取引価格※2

1.8JPY/CICC

1. 本頁記載の内容は情報の提供を目的としており、暗号資産の投資勧誘を行うものではないことをご了承ください。
2. 2025年12月18日現在の時価、及び現在時価を参考に算出

バリューアップ施策

01

市場環境好転

BTC価格の上昇や、米国など主要国の金利がピークアウトするなどカイカコインにとって好材料となるマーケット環境が整いつつあると考えます。

02

実績と信頼

数多に存在するアルトコインの中で、カイカコインは約9年間に渡り上場企業の当社が運用してきた実績を誇ります。

03

使途拡大に伴う需要の増加

カイカコインはGameFiにおけるゲームコインとしての活用を目指しております。ゲームコインとしての利便性が拡がり、需要が増すことでユーティリティの拡大により、利用機会の増加を目指します。

ITサービス事業の成長エンジン

ITサービス事業は当社の売上の大部分を稼ぐ基幹事業です。従来までSES(System Engineering Service)や断片的な受託開発、保守運用の売上高比率が多くを占めておりました。一方、前期からは本格稼働しているDXソリューションサービスを軸とすることで、SIメニューをフルで提供し、高まるDX需要の獲得に努めます。

フルSIを提供スタート

従来

追加システム開発

導入サポート

保守運用

DXソリューション

コンサルティング

設計

プロダクト販売



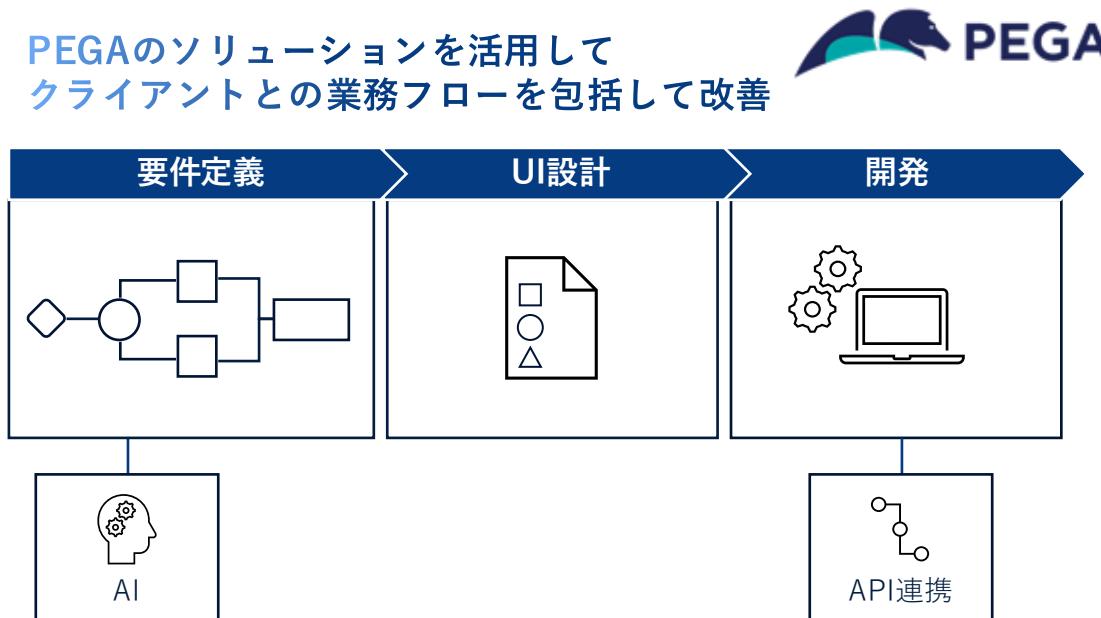
これまで手がけてきた分野とのシナジーにより
さらなる高付加価値な提案を可能に

HCLSoftware

上流フェーズで顧客課題を定義する
コンサルティング力が顧客課題を後押し

ITサービス事業の成長エンジン

2024年10月期末より始動したDXソリューションサービスは、収益の柱であるITサービス事業における成長ドライバーとして位置付けております。DXソリューションサービスを起点として、顧客の根本課題を把握することで従来以上の価値を顧客に提供できるものと考えております。



**HCLのソリューションを
クライアントとのニーズに応じて導入**



PEGA社、HCL社からの案件の紹介および、既存クライアントへのクロスセルにより、既に期初計画を上回るリードを獲得
今後、新規採用により人員を増員することで、今以上のペースで受注を拡大する計画

IoTサービス関連事業 取り扱い製品

株式会社ネクスは、IoT関連ソリューションを展開しています。高い信頼性が求められる産業機器の遠隔監視や重要インフラのバックアップ用途向けに、5G/RedCap対応などのデータ通信端末を提供、テレマティクス事業では、車両データにより安全運転指導や業務効率化を支援するOBD2端末を提供しています。また、監視カメラの画像を即時解析するエッジAIにも注力するなど、IoTによるDXを推進しています。

データ通信端末



「インターネット接続機器」に留まらず、社会インフラ産業機器を支える「止まってはならない通信」を支えています。

- 複合機の遠隔監視
トナー残量や故障予兆をメーカーへ送信
- 重要インフラのバックアップ
ATM、POSレジ、データセンターなど
- 高セキュリティテレワーク環境実現

テレマティクス



自動車のOBD2コネクタに接続する専用端末を提供し、車両情報をクラウドへ送信します。

- 社用車、レンタカー、リース車両の状況をクラウドへ記録します。
- 安全運転指導
急ブレーキ、急発進、急ハンドルなどを検知してクラウドへ記録
 - 車両管理
走行ルート、アイドリング状況を記録

- IoT関連事業は2025年10月期末よりBSを連結に反映し、2026年10月期よりPLを連結に反映します。
- 高性能な通信を必要としない用途向けに、5Gの機能を一部制限することで通信端末の低価格化、省電力化、小型化を実現しています。

AI・受託開発



「エッジAI」機器開発、顧客要望による「専門端末開発」を行います。

- カメラ映像などをクラウドに送る前に、エッジAIにより処理を行います。
- 鉄道の混雑検知
車両ごとの混雑状況の算出
 - 人流解析
商業施設での顧客属性の解析
 - 体験型デジタルサイネージ
属性に応じたコンテンツの配信

株式会社ネクスとの事業シナジーについて



- ・ ブロックチェーンを活用したソリューション開発
- ・ AI技術を活用したサービス提供（業務効率化、データ分析等）
- ・ セキュリティソリューション（サイバー攻撃対策、システム監視、認証基盤の構築等）



- ・ IoT機器、通信インフラ機器の開発・販売
- ・ エッジAI端末（NVIDIA製品組込み）の開発・販売
- ・ LTE/5G通信端末やAIエッジコンピュータのODM供給

1. 製品・技術面のシナジー

ネクスのIoT/エッジAIハードウェアと、CAICA DIGITALのクラウド・ブロックチェーン・金融ソフトウェアを統合「端末+クラウド+セキュリティ」のフルスタック型ソリューションを提供

2. 営業基盤の補完

当社グループが持つ金融機関・法人顧客に対し、ネクスの製品群をクロスセル。ネクスが持つ通信キャリア・MVNOとの商流にCAICAテクノロジーズのソリューションを展開

3. コスト構造の最適化

ネクスのハード調達力とCAICAテクノロジーズのSI（システムインテグレーション）力を融合開発・調達・製造体制の効率化と間接費削減、人的リソースの最適配分

4. 中長期的な企業価値向上

意思決定スピードの向上によりPMIを早期実現。DX・Web3・IoT分野での競争優位性を強化し、持続的な成長基盤を確立

➤ 別途、ネクス子会社化のシナジーについて開示しておりますのでご覧ください。

資料名「CAICA DIGITAL、ネクスと共にWeb3型IoT統合ソリューション構想に向けた戦略的PoCを開始～DID×MQTTによる次世代M2M/MECプラットフォームの構築に向けた実証がスタート～」

1. IoT関連事業は2025年10月期末よりBSを連結に反映し、2026年10月期よりPLを連結に反映します。

01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

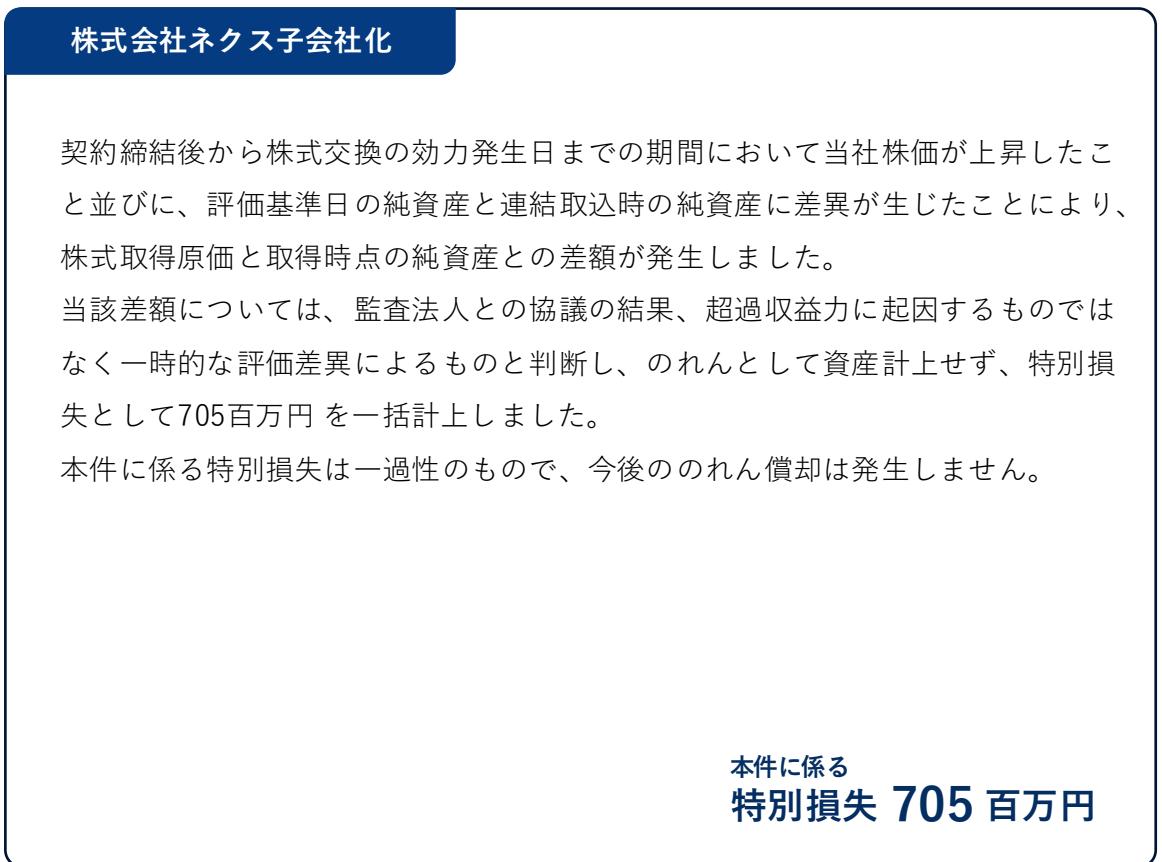
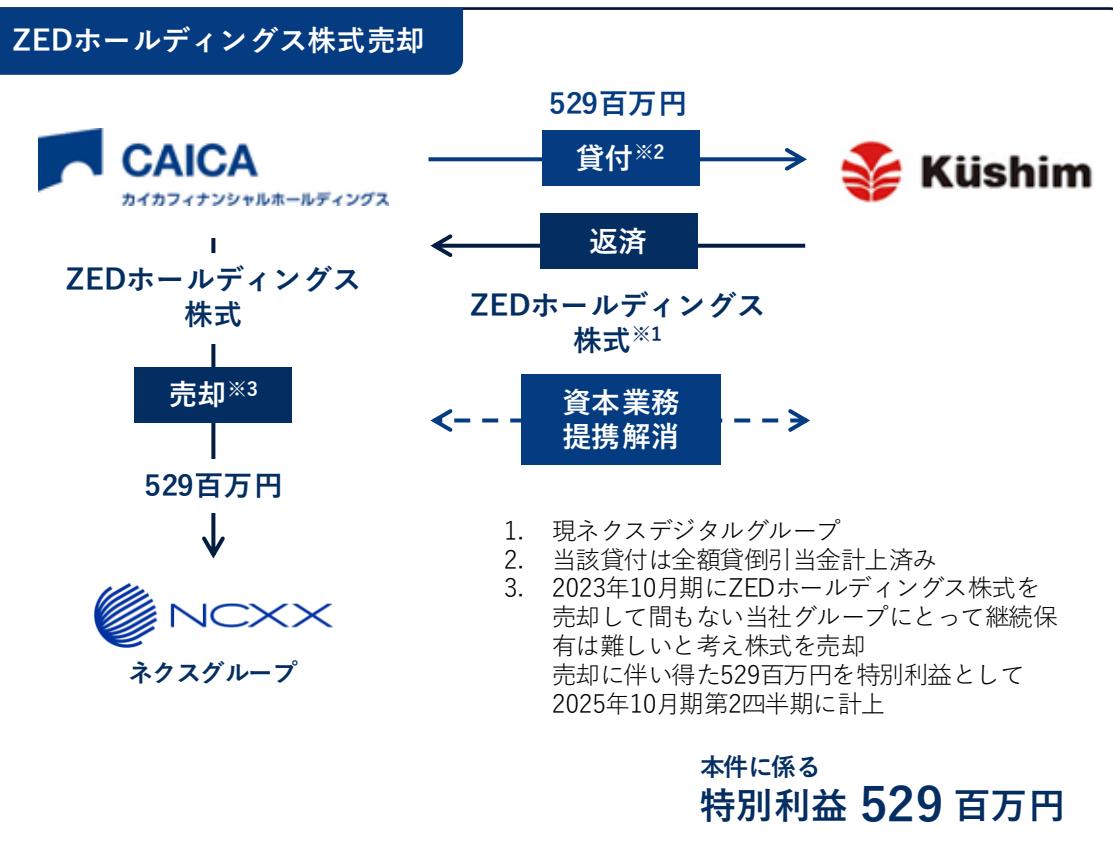
中期経営計画

06

トピックス

特別損益の計上と要因について

当期においては特別利益815百万円、特別損失711百万円を計上いたしました。特別利益は、株式会社ZEDホールディングス株式の売却に伴う特別利益529百万円、および投資有価証券の売却に伴う特別利益286百万円が主因となりました。一方、特別損失は、株式会社ネクスの子会社化に伴い発生したのれんについて一括償却を行ったことにより、特別損失705百万円を計上したことが主因となりました。



過年度修正⁽¹⁾について

当社は、株式会社クシム(2345)の公表⁽²⁾を受け、当社内にて検討を行った上でUHY東京監査法人と当社の過年度の連結財務諸表等への影響について協議を行いました。その結果、当社グループが保有する暗号資産の一部について、当該暗号資産の保有量と市場での流通量のバランスを鑑み、2024年10月期第2四半期で評価の切下げを行っておりましたところ、2023年10月期末で評価の切り下げをすることがより適切であるとの判断したため、過年度の有価証券報告書等を訂正するものです。

単位：百万円	23/4Q 累計		24/1Q		24/2Q 累計		24/3Q 累計		24/4Q 累計	
項目	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後	訂正前	訂正後
売上高	5,408	5,133	1,354	1,448	2,866	2,866	4,225	4,225	5,606	5,606
営業利益	▲2,378	▲2,653	▲77	16	▲196	78	▲175	99	▲159	115
経常利益	▲2,560	▲2,963	▲121	19	▲320	82	▲301	101	▲263	138
親会社株主に帰属する当期純利益	▲3,889	▲4,280	▲228	▲89	▲425	▲35	▲402	▲11	▲359	30
総資産	2,971	2,569	2,726	2,464	2,714	2,714	2,571	2,571	2,425	2,425
純資産	2,198	1,795	2,059	1,797	1,776	1,776	1,737	1,737	1,659	1,659

1. 本頁以降に記載された業績数値はすべて過年度修正後の数値をもとに記載及び算出されていることをご理解ください。
2. 当社と同様に活発な市場が存在しない暗号資産を保有しており、会計監査人も同じUHY東京監査法人でありました、株式会社クシム（証券コード：2345）（以下「クシム」といいます）において、2025年4月4日および2025年4月23日付で保有暗号資産の評価に関する調査報告書が公表され、2025年4月28日付で過年度の訂正報告書等が公表されました。これは、クシムが保有する暗号資産等の一部において、2024年10月期第2四半期における会計処理の一部について、過年度での評価の切り下げ処理とする訂正をおこなったものであります。

株式会社善光総合研究所の子会社化について

当社は、2026年1月29日開催予定の株主総会において承認されることを条件として、株式会社善光総合研究所を株式交付により子会社化することを決議いたしました。株式会社善光総合研究所が有する介護DXに関する知見と、当社グループのブロックチェーン、AI、IoT等の先端技術を融合することで、介護・福祉領域における事業拡大及び中期的な企業価値の拡大を目指してまいります。

法人名	株式会社善光総合研究所
代表者	宮本隆史
顧問	松尾豊 / 藤野英人 / 二川一男
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマート介護プラットフォーム「SCOP」の開発・提供 ・ 介護DXをリードする「スマート介護士」試験・資格事業の運営 ・ 介護事業所・行政向け経営支援・DX支援事業 ・ ケアテック企業向け開発・拡販コンサルティング事業 ・ その他、各種研究・リサーチ事業 ・ 有料職業紹介事業
政策分野における意見交換実施実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岸田文雄前内閣総理大臣と代表宮本の意見交換 https://x.gd/I4STL ・ 河野太郎前大臣との介護デジタル化についての意見交換 https://x.gd/ZWTPD <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>



株式会社善光総合研究所のソリューションとシナジー効果

株式会社善光総合研究所は、介護現場のDX化推進を目的として、現場起点で開発された介護アプリケーション「SCOP」の開発・販売等を行っております。当社の培ってきたAI、ブロックチェーン技術、株式会社ネクスが培ってきたIoT、通信技術を融合することで、記録・請求・見守り業務を一体的に高度化し、介護現場の業務効率向上と付加価値創出を図ってまいります。

スマート介護プラットフォームの次世代化

善光研が開発提供する介護現場の業務効率化及び記録業務のデジタル化を実現する総合介護ソフトウェアである「SCOP」プラットフォームをベースに、当社グループのブロックチェーン、IoT通信技術を組み込み、「介護機器データ+利用者記録+施設運営データ」を統合管理し、トークンインセンティブやサービス価値可視化モデルを構築。

施設向け IoT/通信ソリューション提供

当社グループが手掛けるIoT、M2M及び5G通信モジュール等を、善光研が運営する、利用者の行動分析を行うセンサー機器や利用者の移乗を助ける介護ロボット機器などの実証環境「Care Tech ZenkoukaiLab」に導入・実証。見守りセンサー等で取得したデータをセキュアな通信環境によりクラウドに集約し、データ分析可能とするソリューションを介護現場へ展開。

金融サービス+介護サービスパッケージ

高齢化社会において、サービス利用者が安心かつ快適に使える施設が持続的に運営できるような仕組みとして、当社グループのデジタル金融のノウハウを活かした支払い・報酬・人事評価連動のインセンティブ体系などを善光研と研究。



データ分析・AI活用による価値提供

当社グループのDX・ビッグデータ技術と善光研の介護現場知見で、介護施設でIoTにより取得されるリアルタイムデータ（介護機器からの計測データ/介護記録データなど）を用い、AIモデルによる業務改善・予測（人材配置、転倒予防、入浴支援最適化など）を共同開発し、善光研の顧客に販売。

介護向けコンサルティング事業の体制強化

当社グループのIT実装から運用まで一気通貫で対応可能なコンサルタント部隊と、善光研が持つ介護事業所経営改善・DXコンサルティングのノウハウ（スマート介護士育成カリキュラム等）が連携。これにより、システム導入にとどまらない組織変革（BPR）支援の体制を強化し、コンサルティングサービスの顧客層を拡大。

01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

中期経営計画

06

トピックス

2025年10月通期 累計業績ハイライト

売上高

前年同期比7.3%減

5,195百万円

営業利益

前年同期比38.4%減

70百万円

当期純利益

特別利益・損失計上

166百万円

連結業績

- ・ 売上高はITサービス事業の苦戦により前期比に対して減収、営業利益も減益。
- ・ 当期純利益は第2四半期に有価証券売却益として529百万円、第4四半期に投資有価証券売却益285百万円を特別利益として計上。一方、株式会社ネクスののれんを全額減損損失として特別損失等に計上したことにより、業績予想の修正を行なった第3四半期時点で想定していなかった705百万円の特別損失を計上。

ITサービス事業

- ・ 従来事業の証券・保険向け案件において、期初に見込んだ新規案件の獲得が想定を下回り、軟調な着地。
- ・ 新規事業DXソリューションサービスは概ね期初の見通し通りに進捗したものの、一部ハードウェアの納品遅延より売上計上が2026年10月期に後ろ倒し。

金融サービス事業

- ・ 先行投資フェーズとして、セグメント収支はマイナス。
- ・ NFT漫画プロジェクトにおいて、複数の作品の出版に貢献。

2025年10月期通期 累計連結業績サマリー

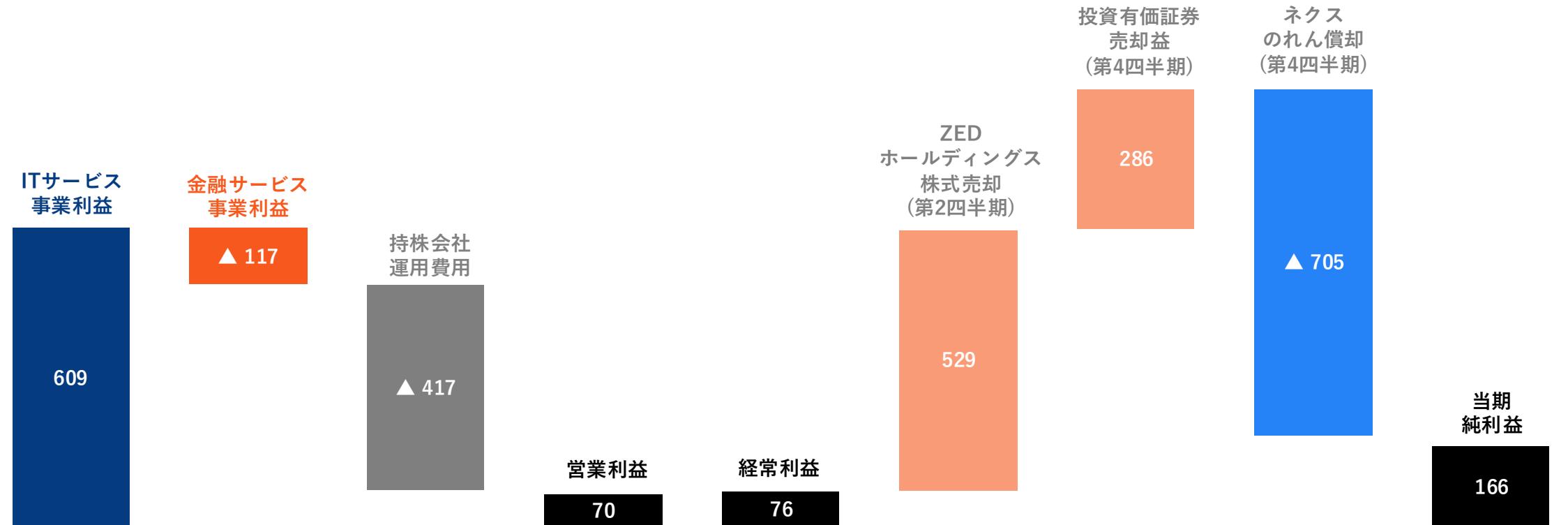
当期はITサービス事業の従来事業において、期初に見込んだ新規案件の獲得が想定を下回ったことを主因として、売上高、営業利益、経常利益は前期比で減少しました。なお、第3四半期に業績予想の修正を発表以降に、株式会社ネクスののれんの全額減損損失に伴う特別損失の計上により、純利益については業績予想を大きく下回る形となりました。

	24/10期 累計実績	25/10期 累計実績	前期比
売上高	5,606	5,195	▲411 ▲7.3%
売上総利益	884	888	+3 +0.4%
売上総利益率	15.8%	17.1%	- -
営業利益	115	70	▲44 ▲38.4%
営業利益率	2.1%	1.4%	- -
経常利益	138	76	▲62 ▲45.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	30	166	+136 -

累計期間における各利益の要因について

2025年10月期は、ITサービス事業が業績を牽引し、各段階利益はプラスで着地しました。当期純利益は、ZEDホールディングス株式および投資有価証券の売却に伴う特別利益を計上した一方、株式会社ネクスのM&Aに伴うのれんの全額減損損失に伴う特別損失の計上など期初想定外の要因が発生し、期初予想と乖離したもの、最終的には前期比444%増の166百万円となりました。

(百万円)

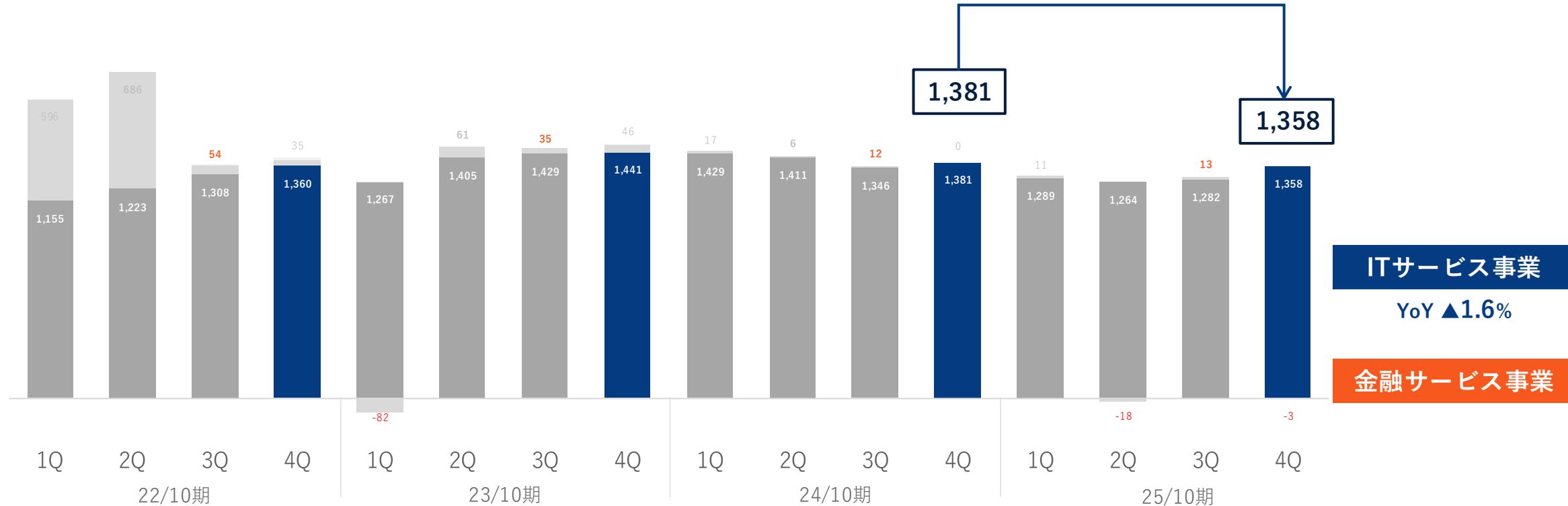


四半期毎の連結売上高推移※1

ITサービス事業は新規事業のDXソリューションサービスが順調に推移した一方、従来事業において新規案件獲得に苦戦した結果、前年同期比1.6%減となりました。一方、金融サービス事業は暗号資産の投資・運用が低調となった結果、前年同期比ではわずかに増加しました。

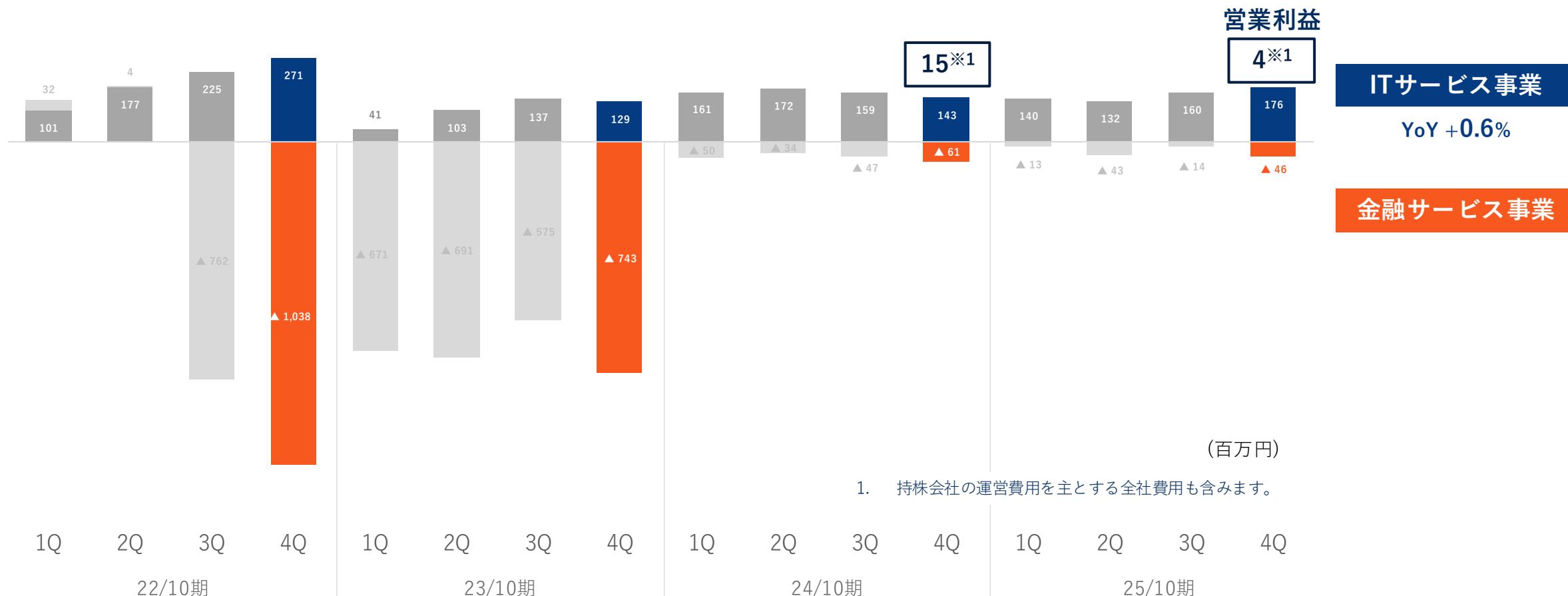
- 内部取引控除後の数字を記載

(百万円)



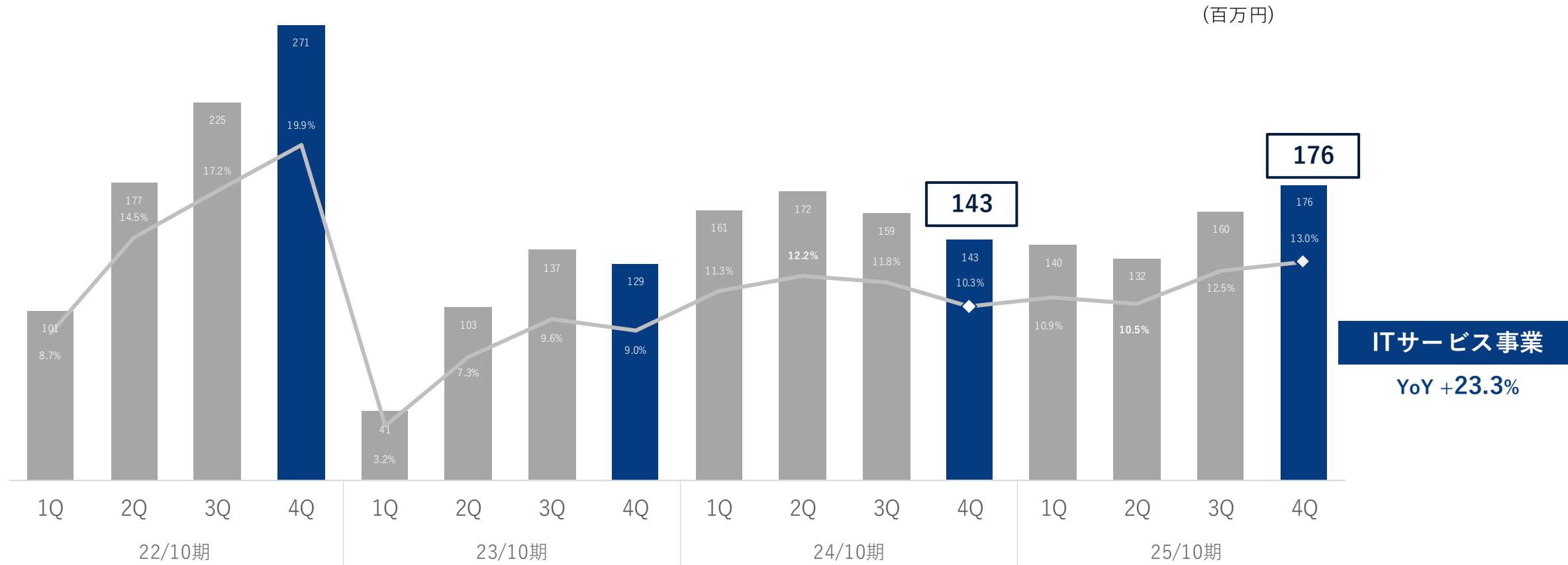
四半期毎のセグメント損益の推移

当期の連結営業利益は1年を通じてITサービス事業が牽引する形で黒字となりました。ITサービス事業においては売上高が減少した一方、利益率の高いDXソリューションサービスが伸長したことを要因として、セグメント利益はわずかにプラスとなりました。金融サービス事業は引き続き先行投資フェーズとして、わずかにセグメント損失を計上しております。



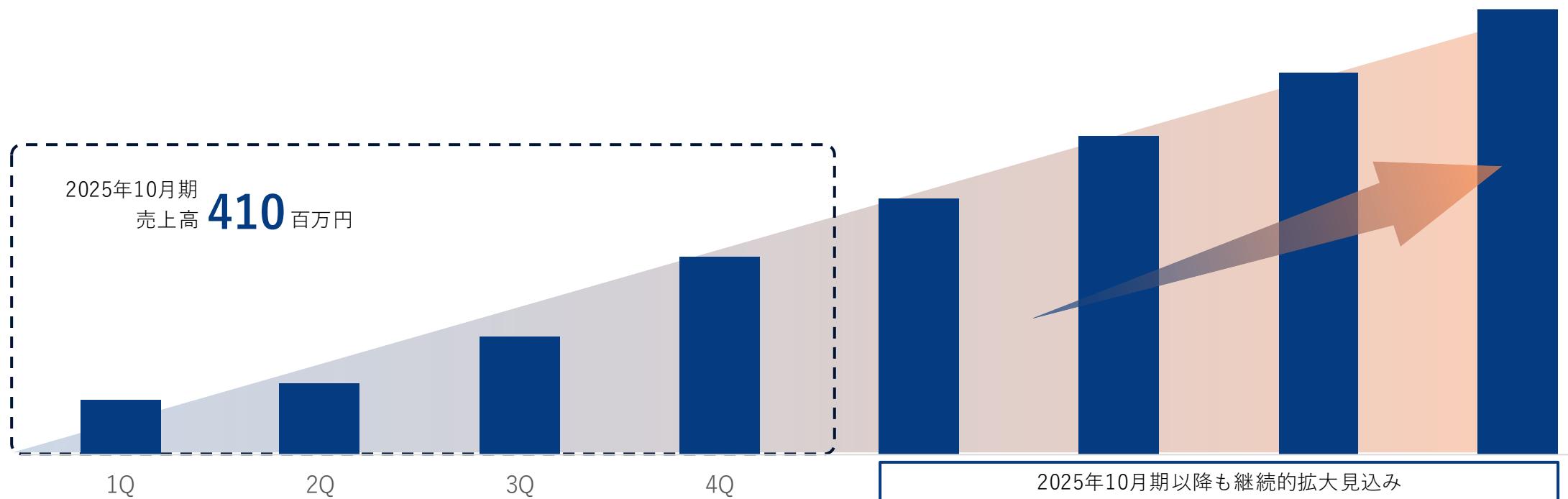
四半期毎のITサービス事業の利益率推移

当期のITサービス事業の売上高は、期初想定どおりDXソリューションサービスの伸長により期末に向けて拡大しました。来期以降は、従来事業の拡大に加え、DXソリューションサービスのさらなる成長を通じて、売上高の拡大を図ります。



DXソリューションサービスの売上高の見通し

ITサービス事業の成長ドライバーである新規事業のDXソリューションサービスの売上高は、一部ハードウェアの納品遅れが生じ、計上が2026年10月期に後ろ倒しとなったものの、概ね期初の想定通り410百万円となりました。既存顧客を対象とした研修サービスなど、新たなサービスライナップの拡充も行なっており、引き続き成長ドライバーとして、業績拡大を図ります。



貸借対照表の推移について

当期は、M&Aにより取得した株式会社ネクスの貸借対照表を連結に取り込んだことにより、純資産の部の増加を主因として資産の部が大きく拡大しました。その結果、自己資本比率は前期末の68.4%から84.2%へと大幅に向上しました。なお、当期末時点では株式会社ネクスは貸借対照表のみ連結されており、損益計算書には連結されておりません。

(百万円)	24/10期	25/10期	前期末比		24/10期	25/10期	前期末比
資産の部	2,425	4,287	+1,862	負債の部	765	676	▲89
内 現預金	698	639	+59	内 有利子負債	169	-	-
				純資産の部	1,659	3,611	+1,952
				内 株主資本	1,807	3,429	+1,622
				自己資本比率	68.4%	84.2%	-

01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

中期経営計画

06

トピックス

2026年10月期 通期業績予想サマリー

2026年10月期は株式会社ネクスの連結取り込みおよび、DXソリューションの伸長により、売上高18.7%増の6,166百万円を見込み、それに伴い営業利益、経常利益は増益となる見込みです。一方、現在時点では特別利益・損失の計上を見込んでいないため、当期純利益は減益となる見通しです。

	25/10期 実績	26/10期 業績予想	前期比
売上高	5,195	6,166	+971 +18.7%
営業利益	70	107	+37 +52.9%
営業利益率	1.4%	1.7%	- -
経常利益	76	107	+31 +40.8%
親会社株主に 帰属する当期純利益	166	91	▲75 ▲45.2%

1. 通期業績予想には、現時点において株式会社善光総合研究所のM&Aによる業績影響は織り込んでおりません。今後、当該M&Aに伴う業績への影響額等が判明次第、速やかに開示いたします。

- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10期末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

2026年10月期 業績予想の根拠

2025年10月期 業績動向

連結

- 売上高はITサービス事業において新規事業であるDXソリューションサービスが伸長した一方、従来事業が軟調に推移した結果、減収。
- 当期純利益は特別利益の計上により大幅な増益。

ITサービス事業

- 従来事業は高収益案件の選別を積極的に進めた結果、減収。
- DXソリューションサービスは想定どおり堅調に推移したものの、一部ハードウェアの納品遅延により、売上計上の期ずれが発生。

金融サービス事業

- 漫画NFTプロジェクトにおける事例拡大を通じて、NFTのユースケース拡大を実現。

IoT関連事業

-

2026年10月期 業績予想

- 売上高はITサービス事業におけるDXソリューションサービスのさらなる拡大に加え、株式会社ネクスのPLが連結に組み入れることにより、増収を見込む。
- 当期純利益は特別利益の計上を想定していないことから、減益を見込む。

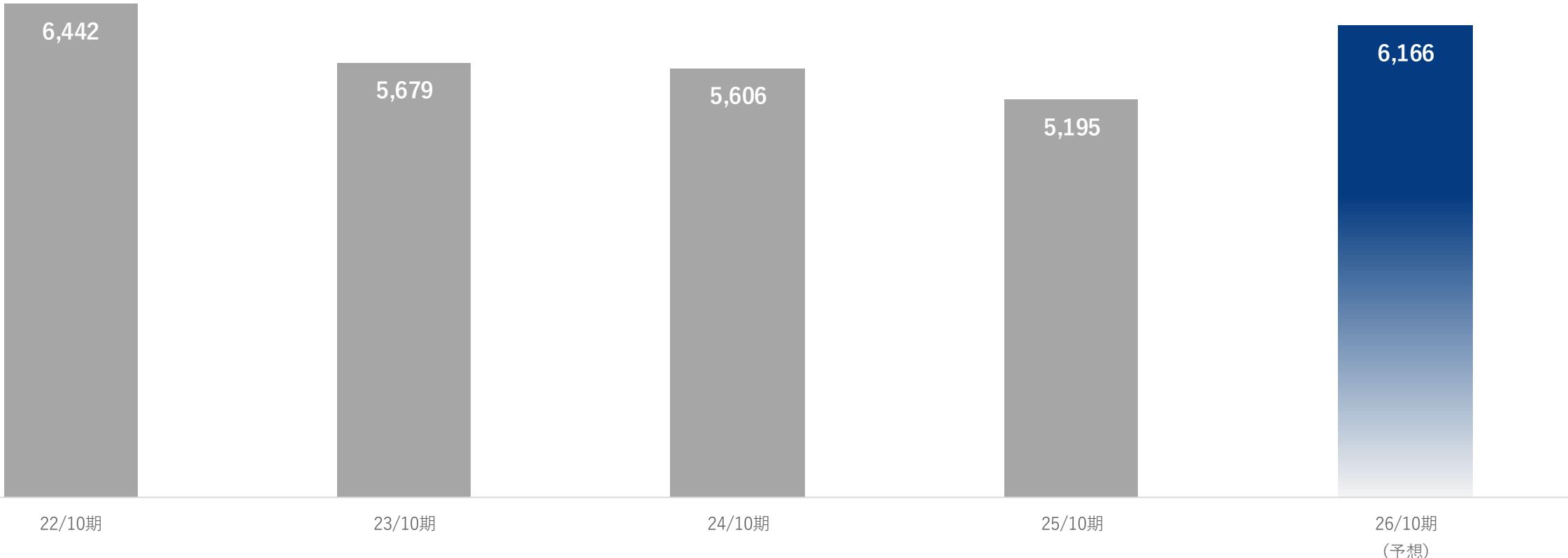
- 営業体制の強化により新規の高収益案件の獲得を図るとともに、既存顧客からの受注拡大を目指す。
- DXソリューションサービスのさらなる成長を推進する。

- 引き続き投資フェーズと位置付け。
- 漫画NFTプロジェクトのさらなる事例拡大を進めるとともに、新たなNFTユースケースの創出を図る。

- ITサービス事業の既存顧客に対するクロスセルを起点とした販路拡大を通じて、中期的な業績成長を目指す。
- ソフトウェアに強みを持つCAICAグループとのシナジーを最大限に活用し、新たな製品開発を推進。

通期売上高※1の推移と要因

事業再編に伴う子会社の売却などの影響により直近数年は売上高は横ばいの傾向にあります。2026年10月期はITサービス事業の伸長および、M&Aにより取得した株式会社ネクスの連結組み入れにより売上高の拡大を図ります。

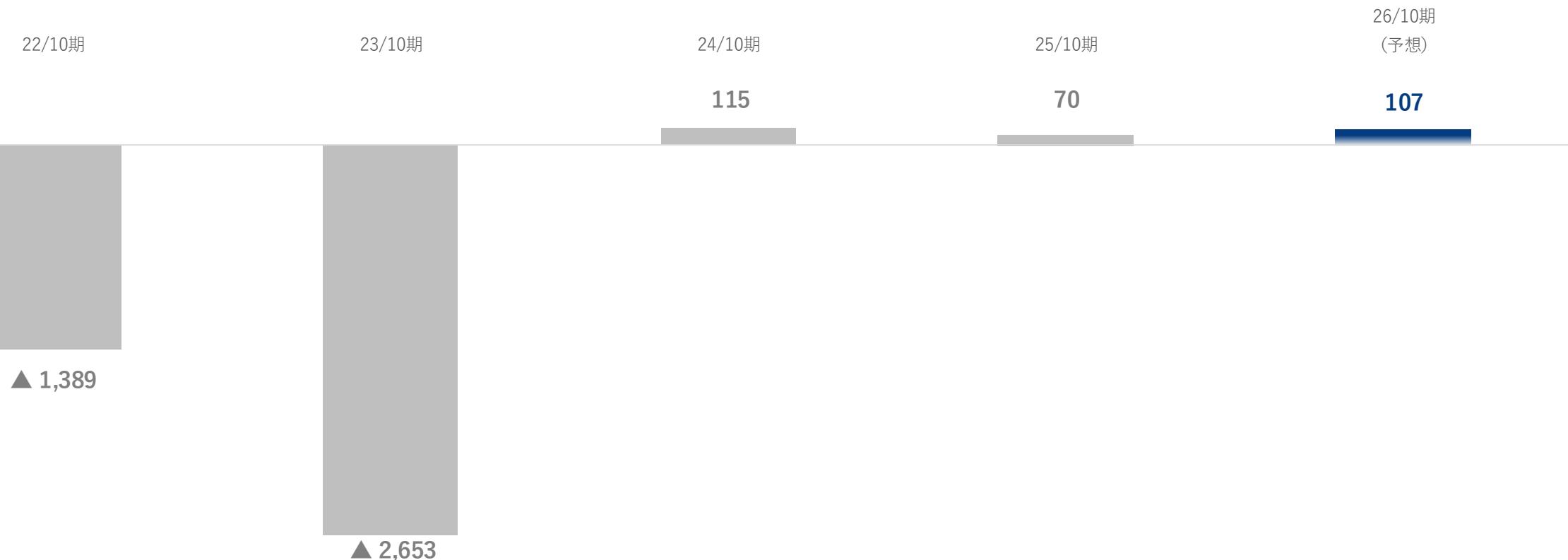


1. 23/10月期以降の数字を遡及処理

- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10月末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

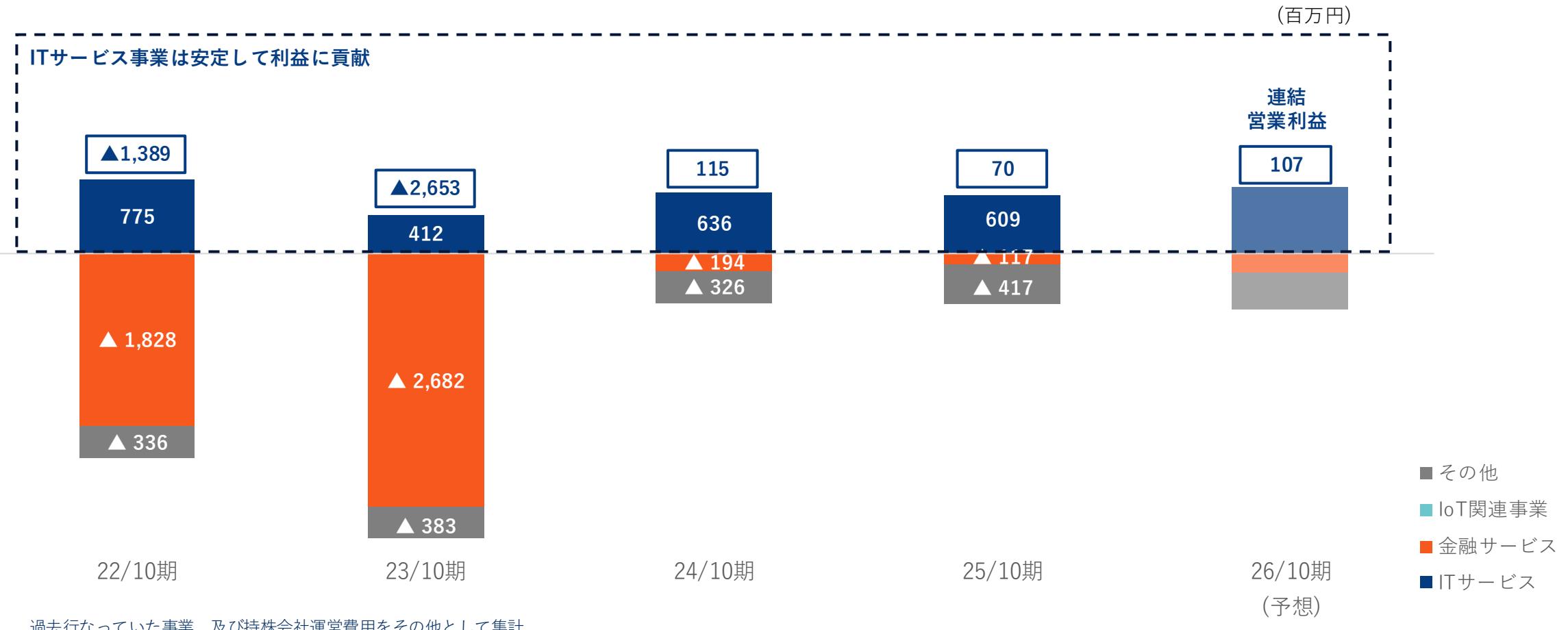
通期営業利益の推移と要因

2023年10月期までは、金融サービス事業における暗号資産交換所運営などの先行投資を主因として、大幅な赤字を計上していました。一方、2024年10月期以降は、ITサービス事業が業績を牽引し、安定的に黒字を計上しています。2026年10月期は、これに加えて、M&Aにより取得した株式会社ネクスが連結業績に寄与することで、さらなる業績拡大を目指します。



セグメントごとの通期損益の推移と要因

当社は、ITサービス事業が継続的に利益に貢献してきました。2023年10月期末に金融サービス事業で運営していた暗号資産交換所事業を譲渡したこと、連結営業利益は大きく改善し、以降は黒字を維持しています。2026年10月期においても、ITサービス事業を収益の柱としつつ、M&Aにより取得した株式会社ネクスのIoT事業が連結業績に寄与することで、さらなる収益拡大を見込んでいます。



01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

中期経営計画

06

トピックス

中期経営計画の修正※1

当社は、2026年10月期を最終年度とする中期経営計画を2023年10月16日に公表しましたが、既存事業の伸長が想定を下回り、かつM&Aの進捗も限定的であったことから、2026年10月期の通期業績予想開示に合わせて本計画を下方修正します。なお、準備が整い次第、新たな中期経営計画を公表する予定です。

	従来 中期経営計画	修正後 中期経営計画	増減額	増減率
売上高	7,813	6,166	▲1,647	▲21.1%
営業利益	467	107	▲360	▲77.1%
営業利益率	6.0%	1.7%	-	-
経常利益	-	107	-	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	-	91	-	-

1. 中期経営計画には、現時点において株式会社善光総合研究所のM&Aによる業績影響は織り込んでおりません。今後、当該M&Aに伴う業績への影響額等が判明次第、速やかに開示いたします。

- ・ 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10月期末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
- ・ 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

中期経営計画サマリー

CAICA DIGITALは2023年10月期に事業再編を行い、長期的な成長を見据えて収益体制を再構築してまいります。その一環として3ヵ年業績計画を中期経営計画として開示致します。

「デジタル金融の世界を切り拓く」のスローガンのもと、複数の金融子会社をM&Aにより取得するが、暗号資産市場の低迷や関連規制の強化など、様々な要因により当初想定した利益が得られず

2018年10月期～2023年10月期

安定的に利益を計上していたITサービス事業の伸長を図るとともに
金融サービス事業における収支の状況を抜本的に見直し、事業の集中と選択を図る

2023年10月期

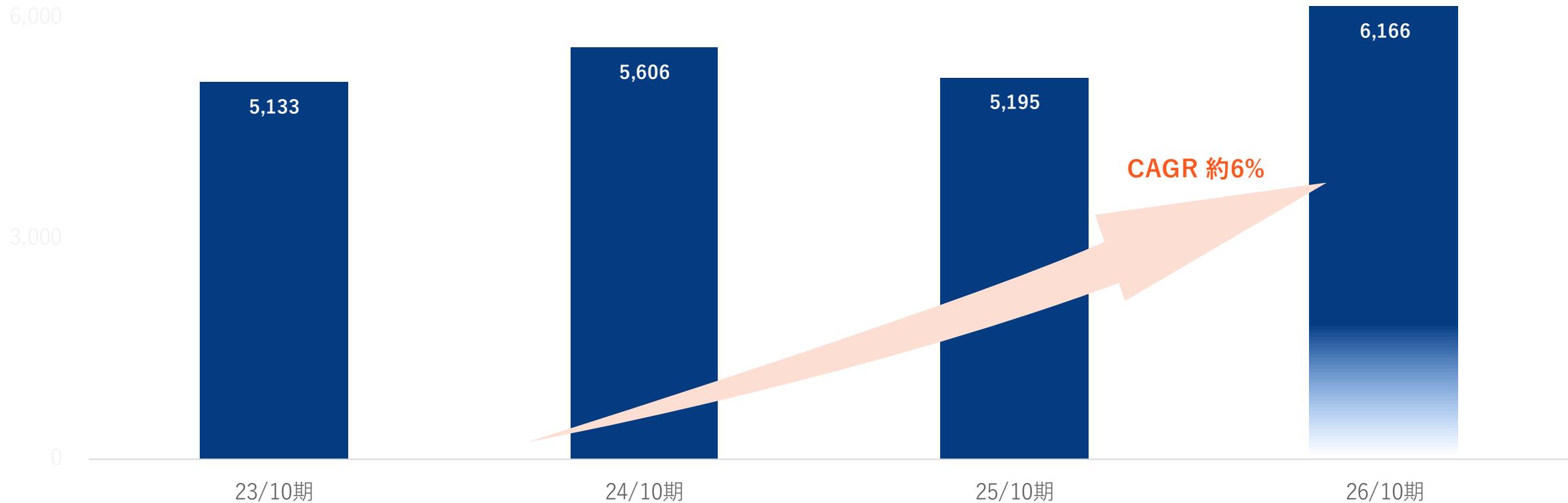
ITサービス事業の伸長を図りつつ、金融サービス事業の運営経験を活かしたWeb3事業を展開

2023年10月期～2026年10月期

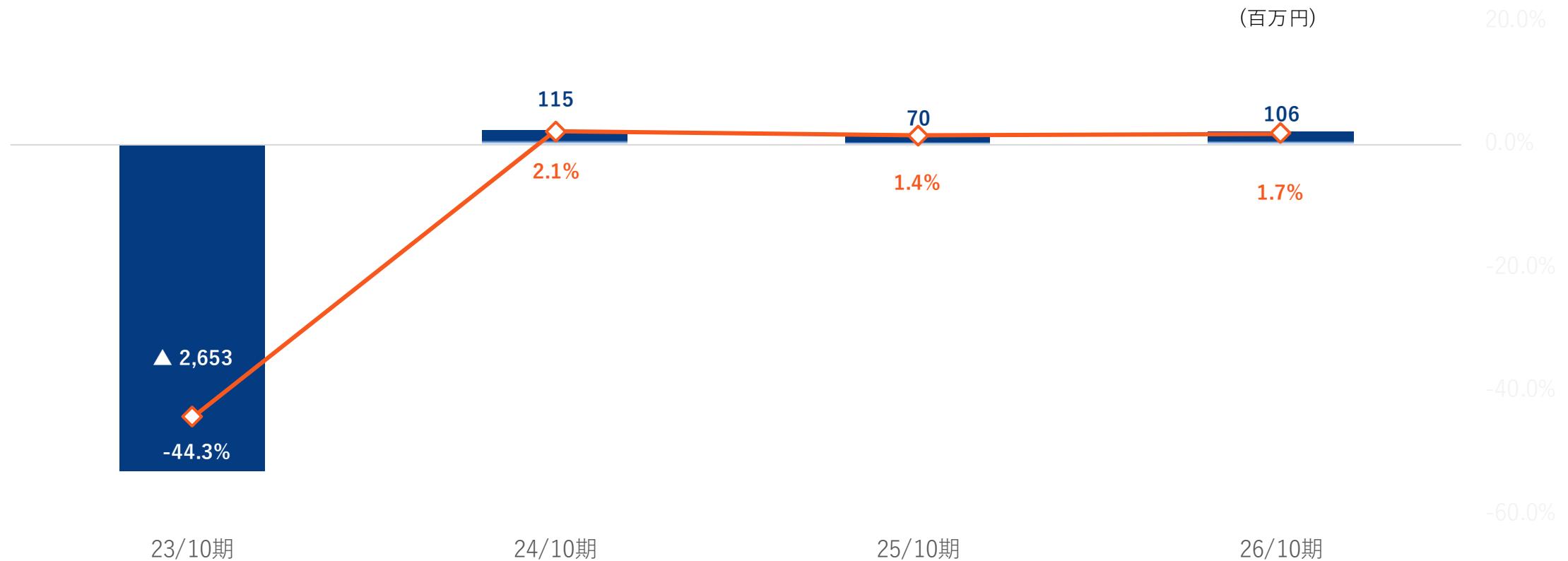
連結売上高予想⁽¹⁾

修正後の中期経営計画では、2023年10月期から2026年10月期にかけて、売上高は年平均成長率（CAGR）約6%の成長を目指します。なお、修正前の中期経営計画では、ITサービス事業および新規事業の拡大に加え、M&Aを前提とした年平均約15%の成長により、売上高7,813百万円を計画していました。

(百万円)



連結営業利益及び営業利益率の見通し



- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10月期末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

新しいCAICA DIGITALの体制図

CAICA DIGITALは安定したキャッシュ・フローを産むITサービス事業を基盤として、「デジタル金融の世界を切り拓く」というミッションのもと、更なるWeb3事業の拡大を図ります。またWeb3コンサル事業「CAICA Web3 for Biz」より、上流工程のSI案件を獲得することにより、ITサービス事業の収益性向上を図ります。

金融サービス事業



自社サービスの知見を活かしたコンサルティング事業
CAICA Web3 For Biz

ITサービス事業

安定したキャッシュ・フローを産むSI事業
CAICA テクノロジーズ

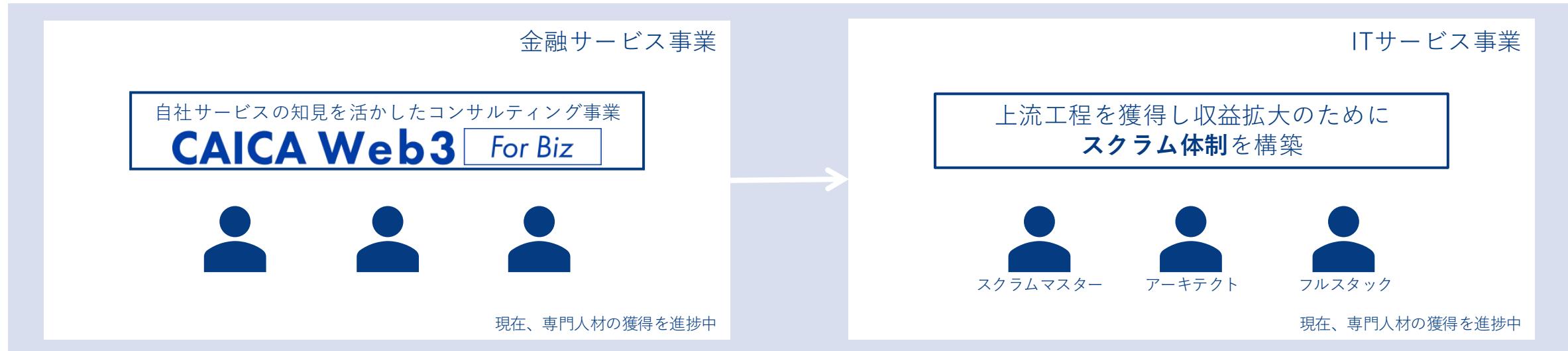
上流工程を獲得し収益拡大のために
スクラム体制を構築

CAICA Web3 For Bizで生じたニーズをSI事業で網羅

M&A活用による更なる事業拡大

IT×Web3により高単価案件を獲得

金融サービス事業で培った知見を活かし、ITサービス事業においてもWeb3領域の高単価案件の獲得を目指し利益率の改善を図り、最終年度の2026年10月期には営業利益率を6.0%まで向上させる見込みです。そのための手段として、2024年10月期よりコンサル人材、及びハイスペックなエンジニアの採用を進め、専門チームを組成します。



高単価案件を獲得し、将来的に**連結営業利益率6.0%**を目指す

- 本資料は情報の提供を目的としており、将来の投資成果を保証するものではありません。また本資料に掲載した内容は2025年10月期末現在のものであり、今後変更される恐れのあることをご承知ください。
- 本資料はCAICA DIGITAL(2315)が決算情報の提供を目的として作成しております。無断での転載はお控えください。

01

当社概要

02

当期の要点

03

2025年10月期 通期決算

04

2026年10月期 通期業績見通し

05

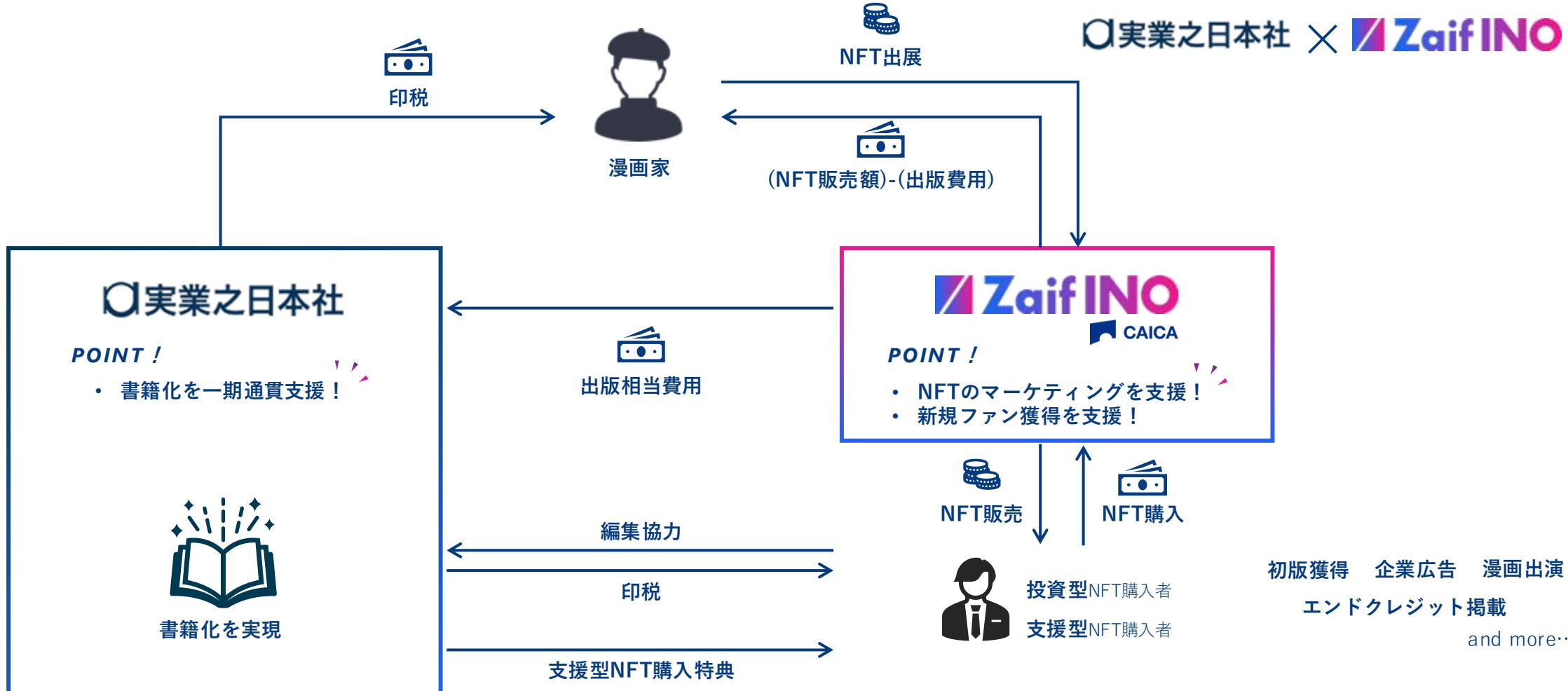
中期経営計画

06

トピックス

NFTカードを活用した「NFT漫画プロジェクト」始動！

Zaif INOと実業之日本社が協業し、NFTを通じて漫画家さんの出版活動を応援する「NFT漫画プロジェクト」を開始しました。支援型漫画NFTと投資型漫画NFTの2種類のNFTを販売し、NFT出版、電子出版、紙書籍出版の3つのスタイルで出版を目指します。Zaif INOから、暗号資産不要・ウォレット不要でNFTが所有できる「NFTカード」形式で販売します。



NFT漫画プロジェクト作品一覧

金融サービス事業の新サービスNFT漫画プロジェクトにおいて、続々と新しい作品のリリースが決定しております。今後も継続して新しい作品の誘致を進め、Zaif INOの認知向上を図るとともに、取扱高の向上に努めます。



特設ページはこちら👉

<https://zaif-ino.com/media/nft-manga/>

「ジンバブエと漫画でつながる国際文化交流プロジェクト」始動

本プロジェクトにおいて、2025年8月15日～9月30日に現地漫画家の募集を開始しました。また2025年8月24日にジンバブエで開催されたアニメ、漫画、ゲーム、コスプレなど、日本のポップカルチャーを紹介するジンバブエの本格的なアニメコンベンション「OTAKUKON（オタクコン）」において、在ジンバブエ日本国大使館及び現地関係者の協力を得て広く公募活動を実施しました。



ZaifINOライブラリ「電子書籍読み放題」サービス開始

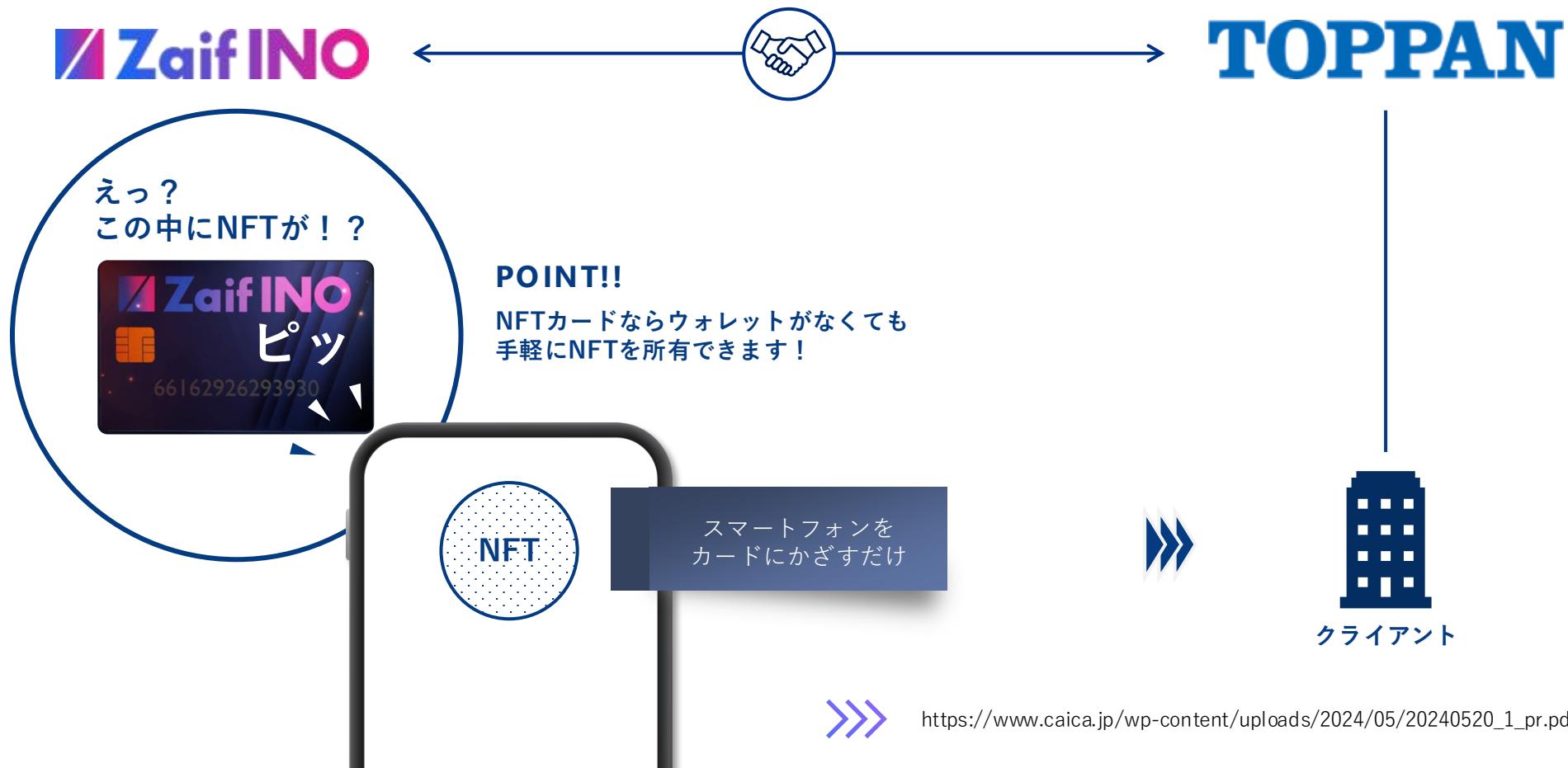
ZaifINOメンバーズカードをスマホにかざすだけで、実業之日本社が提供する電子書籍が購読可能となります。今後メンバーズ限定のサービスを拡充させてまいります。



初回購読可能な書籍は、月刊誌「ワッグル」（ゴルフレッスン専門誌）、
月刊誌「ライダースクラブ」（スポーツバイクライディング専門誌）の2誌です！

Web3領域におけるNFT活用連携、サービス/プロダクト共同開発推進の進捗状況

プレスリリース「CAICA DIGITALとTOPPAN、Web3領域におけるNFT活用で連携」の通り当社グループの運営するZaif INOはTOPPANと代理店契約を締結しております。その後、TOPPANのクライアントに対してNFCタグ機能を活用したNFT配布サービスを提供致しました。NFCタグ機能の活用により、Web3ウォレットを所有していないユーザーに対してNFT付与が可能となります。



カイカコインで購入可能なNFT第1弾「Zaif INOデジタルプレミアムチケット」販売

カイカコイン山分け企画の参加権、今後販売を予定しているオリジナルNFTプレセールAL確定枠権、オリジナルNFT先行情報取得権、ホルダー限定コミュニティ参加権等、様々な権利を内包するZaif INOオリジナルNFT、Zaif INOデジタルプレミアムチケットの販売を決定しました。



https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2023/12/20231215_1_oshirase.pdf

NFTカード活用事例の展開

当社はWeb3のパイオニアとして、NFTを活用した多様なソリューションを展開してきました。これまでに蓄積したノウハウを活かし、新たにNFTカードを活用したサービスの提供を開始しました。本サービスは、NFTカードを通じてファンとの接点を強化し、ファンマーケティングの高度化・加速を支援するものです。

ラグジュアリー



高級時計やバッグに同梱されたカードをタッチするだけで正規品かどうかわかる。転売時も一瞬で権利移転。

アート&コレクション



作品画像とエディション番号をスマホ表示。安心して売買でき、作家にも収益が循環。

保証・公的書類



車両所有権や家電保証をカードに集約。名義変更・整備履歴の更新もスマホで完結。

会員制サービス



レストランやホテルで提示すれば即チェックイン。行けなくなった会員権は譲渡して資産化。

ロイヤリティ/小売



ユーザーが来店したり購入スタンプを集めるとクーポンが自動発行。お客様に選ばれるブランドへ。

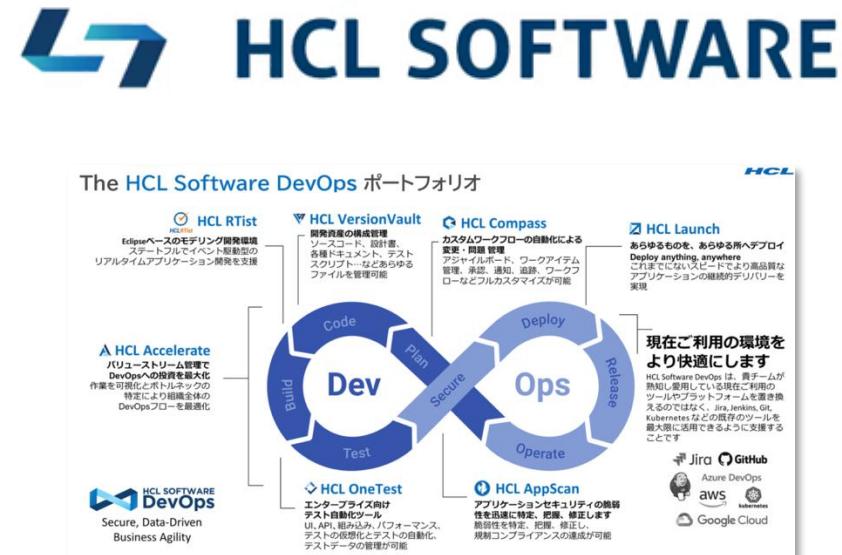
イベント&チケット



入場ゲートはワンタッチ。カードに限定ライブ映像が自動追加され"デジタル記念品"に。

HCL Softwareのパートナーに認定、Pegasystemsとパートナーシップ契約締結

ITサービス事業においてクライアントのDX加速を目的として、HCLSoftware社のパートナーに認定されました。またPegasystemsとパートナーシップ契約を締結しました。これにより当社グループは、コンサルティングからソリューション導入、運用保守までをワンストップで提供することが可能となりました。



https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/04/20240423_1_pr.pdf

https://www.caica.jp/wp-content/uploads/2024/01/20240104_1_oshirase.pdf

DX対応の加速：HCL Technologies社と基本再販業者プログラム契約を締結

当社は予てよりHCL Technologies社とパートナー契約を締結しておりましたが、2024年8月、同契約が基本再販業者プログラムへと昇格しました。これによりディストリビューターを経由せずにHCL Technologies社のDXソリューション製品を販売可能となりました。コンサルティングから製品導入、保守運用まで、DXニーズへの対応を加速する体制が整い、事業拡大を進めてまいります。



多彩なDXソリューションを販売



営業人員

経験豊富なスペシャリストを新規採用
ソリューション営業専門チームを組成完了(2024年8月)



エンジニア人員

社内組織横断型でプロジェクト組成
フルラインナップSI体制を構築

SESからSIへの転換を図り利益率の大幅な向上を狙う

DXソリューションサービスにおける販売体制強化及び、新サービス提供開始

HCLSoftware製品の販売強化に向けた取り組みとして、営業人員の拡充および技術要員の育成を推進するとともに、各製品に関する情報発信するランディングページを新たに公開いたしました。またHCLSoftware製品の利活用スキルの向上を目的として、新たに研修サービスの提供を開始しました。



特設ページはこちら👉 <https://www.caica-technologies.co.jp/portals/domino/>

CAICA DIGITAL 公式Xアカウント開設のお知らせ

この度、株主・投資家の皆様に向けてより広く情報をお届けすることを目的として、CAICA DIGITAL 公式Xアカウントを開設し、2025年3月7日より運用を開始いたしました。

CAICA DIGITAL 公式X

アカウント名	CAICA DIGITAL
ユーザー名	@caicad_inc
URL	https://x.com/caicad_inc



カイカコイン 公式X

アカウント名	カイカコイン
ユーザー名	@CAICA_COIN
URL	https://x.com/CAICA_COIN



ZaifINO 公式X

アカウント名	Zaif INO NFT販売所
ユーザー名	@zaif_ino
URL	https://x.com/zaif_ino



本資料について

- 本資料は、株式会社CAICA DIGITAL（以下、当社）の決算情報の提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。実際の投資に際しては、ご自身の判断と責任において投資判断を行って頂きますようお願い致します。また、本資料の記述内容につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。
- 本資料には、当社および連結子会社の計画など将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、作成時点において入手可能な情報に基づいており、様々なリスクや不確実性が内在しています。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。
- 本資料は一部(百万円)または(千円)以下を切捨てて掲載しております。一方、前期比等については切捨て前の数字を参照し任意の位で四捨五入をした上で算出した数値を掲載しております。